

40年の

あ

10

み





40年の

あ

D

み



## 目 次

	●体育協会専門部沿革	3	17	●スポーツ少年団本部 ──	41
	●挨 拶	4		スポーツ少年団各専門部	会
	● 座談会:体育協会設立時について ——	6	1	<b>●</b> ミニバスケットボール専門部会	42
	H2O現在体育協会各専門	部	2	●サッカー専門部会	44
į	●軟式野球 ────	8	3	●軟式野球専門部会	46
2	●ソフトテニス ──	10	4	●ハンドボール専門部会 ──	——— 41
3	●ラグビー	12	5	●少林寺拳法専門部会	50
4	●バスケットボール ──	16	6	●柔道専門部会	5:
5	●バレーボール ──	18	7	●ソフトテニス専門部会 ──	54
6	●卓球 ————————————————————————————————————	20	8	●硬式野球専門部会	56
7	●ゲートボール	22	9	●剣道専門部会	5
8	●ソフトボール ―――	24		その他	
9	●バドミントン	26		●守谷ハーフマラソン ──	5
10	●ゴルフ ―――	28		<b>●町民体育祭・スポーツフェスティバル</b>	
11	●少林寺拳法	30		●守谷体育協会規則・細則・表彰規定 ─	
12	●登山・ハイキング ―――	32			
13	●トランポリン ―――	34			
14	●グラウンドゴルフ ―――	36			
15	●柔道	38			
16	●剣道 ————	40			

## 体育協会専門部沿革

1955年(昭和30年)3月守谷町・高野村・大野村・大井沢村の1町3ヵ村が合併し守谷町誕生。 当時のスポーツ活動といえば軟式野球が中心で学校体育の延長としての活動が主であった。そ のころ、スポーツ愛好会が独自で活動していたが、1964年(昭和39年)の東京オリンピック を契機にスポーツ活動の機運も広がり、当時の高橋吉次野球部代表らが中心となり体育協会の 準備会を結成した。1968年(昭和43年)町助役であった中村力氏を初代会長として体育協会 が発足した。発足時は野球部、山岳部、テニス部、サッカー部、バレーボール部、剣道部の6団 体であった。当時はグラウンドも体育館もなく中学校や町内の企業のグラウンドを借用し活動 した。その後、スキー部、ラグビー部、柔道部、バスケットボール部、卓球部、ソフトボール 部、ゲートボール部、バドミントン部などが加わり、昭和50年代あたりからスポーツを楽しむ ために町学校施設が開放され各部会に多くのチームが誕生することになった。また昭和57年、 町民の健康と親睦を目的とし第1回町民体育祭が行われ、平成14年からはスポーツフェスティ バルとして実施されているが、体育協会としては、各部会からの参加や、大会の運営など多方 面に協力をしてきた。昭和59年4月第1回町民健康マラソン大会が行われ110名が参加した。 この大会はその後「守谷ロードレース大会」として第12回まで開催され、平成9年の第13回より 「守谷ハーフマラソン」と改称され今年第25回が行われた。これらの大会は当初、役場が中心と なって行ってきたが、現在体育協会が中心となり、実行委員会が主体として行っている。

昭和62年3月体育協会の機関紙「もりやまち体育協会」第1号が発刊され今日24号に至る。また、加盟団体にスポーツ少年団も加わり、サッカー、ミニバスケット、ソフトボール、硬式・硬式野球、バドミントン、ハンドボール、剣道などが活動している。平成以降、ゴルフ部、少林寺拳法部、登山・ハイキング部(新)、トランポリン部、グラウンドゴルフ部、柔道部(新)、剣道部(新)が加わり現在に至っている。

現在、体育協会は18の各スポーツ団体と10のスポーツ少年団あわせて2,095名からの市民が活動している。

#### 歴代会長

中村 力......(昭和43年~昭和60年6月)

大久保 隆司......(昭和60年6月~平成5年3月)

豐島 清.....(平成5年4月~平成10年3月)

**大久保 進......** (平成10年4月~平成14年6月)

中田 孝太郎.....(平成14年7月~現在)



守谷市体育協会 会長

## 中田 孝太郎

守谷市体育協会も設立40周年を迎え、このたび記念誌が発刊できますことを喜ぶとともに、これまで本協会発展の ためにご尽力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

本協会は設立以来多くの指導者、会員の皆様のご努力により生涯スポーツの振興に大きく貢献するとともに、市の 発展に大きな牽引者的役割を果たしてまいりました。

昭和43年に設立された当初は、野球部を中心とした小さな団体でございましたが40年が経過し、現在18部の専門部、会員2,095名を数えるにいたっております。又、本協会が主催しております「守谷ハーフマラソン」は県内はもとより日本各地から多数の参加をいただき全国ランニング大会100選に選ばれるなど、好評をいただける大会に成長してまいりました。

さて、今回設立40周年を迎えるにあたり記念事業を検討する中で、講演会等イベント等の単発事業の案もでましたが、本協会の足跡をまとめたものがないため、これを機会に記念誌を発刊することといたしました。今回の記念誌では編集時間が限られていたため記録できなかったことも多くあります、本書をもとに今後さらに充実した記念誌が作成されることを願っております。

最後に本40周年記念誌を発刊するにあたり多大なる協賛をいただきました企業各位に感謝しご挨拶といたします。

## 守谷市体育協会設立40周年を祝して



守谷市長

## 会田 真一

守谷市体育協会が設立され、数々の実績とともにここに設立40周年を迎えられましたことは、誠に意義深いことであり、同時に今日までの貴協会の皆様のご労苦とご努力、また、日ごろの活動に心から感謝を申し上げます。

貴協会が発足された昭和43年、我が国は高度経済成長の中にありました。あれからまさに激動の時が流れ、昭和から平成へと時代は移り、そして今、少子高齢化や情報化に象徴されるとおり、日本の社会状況は大きく様変わりいたしました。

振り返ってみますと、本市も平成14年に茨城県内で22番目の市として「守谷市」となり、更には平成17年につくば エクスプレスが開業し、今まさに賑わいのあるまちとして大きく飛躍しようとしております。

こうした中で、貴協会は市民の健康づくりや活気あふれるまちづくりに大きな影響を与え、本市のスポーツ振興推 進の大きな原動力となって活躍されてこられました。

特に、昭和59年に始まった町内健康マラソン大会は、現在守谷ハーフマラソン大会と名称を変え、全国より大勢の 方が参加される本市の一大イベントとなっています。

これもひとえに、協会員の皆様の並々ならぬ御努力の賜であると、心から敬意を表する次第であります。

守谷市としましても引続き体育協会との連携を深め、明るく活力に満ちた生涯スポーツ社会を実現し、市民の誰も が、いつまでも健康で元気で過ごせる環境づくりを共に推進してまいりたいと考えております。

終わりに、本誌発行にあたり御尽力されました方々に対し、深く感謝を申し上げますとともに、貴協会の益々のご 発展をご祈念いたしまして祝辞といたします。

## 守谷市体育協会設立40周年を祝して



#### 守谷市教育委員会

教育長

## 北村 裕信

守谷市体育協会設立40周年おめでとうございます。

この間、守谷ハーフマラソンをはじめ各種スポーツ大会・教室・イベントの開催、様々な地域活動を通して守谷市体育協会の果たされてきた役割は真に大であります。

守谷市体育協会が設立された昭和43年当時の守谷町人口は約12,000人でございました。現在市人口は59,000人を超えております。そのような人口急増の中で市民の交流の場としての役割も果たされてこられました。

守谷市といたしましても、生涯スポーツ振興ということで「スポーツフェスティバル」の開催、学校体育施設の開放、スポーツ大会・教室の開催等をいたしておりますが、体育協会の協力があって成り立っているところでございます。

さて、近年、仕事中心から生活重視へという意識が変化してきており、余暇を活用し、豊かなライフスタイルを構築したいという要望が強まってきております。また、体力の向上、精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など健康の保持増進の意識も高まっております。このような中で守谷市体育協会の役割はますます大きくなっております。最後に守谷市体育協会の益々の発展を祈念しお祝いのことばとさせていただきます。

## 守谷市体育協会設立40周年を祝して



#### 守谷市体育協会

初代会長

## 中村 力

守谷市体育協会設立40周年、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

現在,市民2,000人の方々が協会に参加され、スポーツを通して守谷市民の大きなコミュニケーションの輪に加わり、守谷市の街作りに組織としてその役割を果たしつつあることに、先人として高い誇りを感じております。

私が初代会長になったその頃は、野球中心の小さな集まりでした。どうしても行政の力を求めなければ、組織としての運営が出来ませんでした。従って、行政にかかわりのある私が推されたのでした。

現在,守谷市体育協会は,素晴らしく大きな組織になっています。これからは、自立の財政基盤を確立して、会長をはじめ役員等についても広く人材を求め、民主的に選んで行くべきだと思います。楽しく、明るく、力強い協会を更に発展させて下さい。

守谷市も、各企業も、そして一般市民も、体育協会が行う総での事業に、心より賛同し協力してくれるものと信じます。

守谷市体育協会の益々の発展を心からお祈り申し上げます。

## 座談会:体育協会設立時について







中村 力 初代会長



塚原三千勝氏

**中田**: 今日は初代会長の中村力さん、守谷の社会教育に長年携わってこられた塚原三千勝さんにお出でいただきまことにありが とうございます。さて本日はお二人に守谷市体育協会発足時の状況をお聞きしたいと思います。

守谷市体育協会も現在18部2,000名超の会員がございまして順調に運営しております。

私が会長になり6年目になり、皆様のご協力により運営いたしております。今年になり理事及び事務局から40周年になるという話がでその40年の節目としてなんか事業をやったらいいだろう、いろいろな意見がでたのですが、最終的には後世に残せるものが大事だろう。これを逃すとまた過去の掘り起しができないということで、思い切って記念誌を作ろうと決定しました。作成委員会に理事から5名選んでもらい、今日は委員長の高梨さん、委員の大久保さんに来てもらっています。現在資料を収集し各部からも原稿が上がってきていまして、それらを構成すれば記念誌ができると思っています。

その中で昭和61年度からは体育協会広報紙が残っていますが、昭和43年の発足当時のことがわかりませんので初代会長の中村さん、それと塚原さんも当時を良くご存知ということで来ていただいております。生の声を聞かせてもらい後世に残せる記念誌ができればいいなと思っております。

高梨:発足当時のことをお聞かせください。

事務局:中村さんは昭和43年11月まで守谷町助役を勤められています。

中田:中村さんは昭和43年から昭和60年6月まで会長をやられていますね。

中村:資料に書いてある昭和43年1月15日に高橋吉次野球部長が中心となり 話し合いを実施したというのはそのとおりです。高橋さんが県の団体 との話しで力説していた、良かろうということで始めた。塚原先生も いろいる関わりがあったでしょう。

**塚原**: 当時はスポーツといえば野球がメインでした。野球が大きな組織だったことは覚えています。



高梨 隆 編集委員長



大久保富夫 編集委員

大久保: 発足の経緯は県の主導というのはあったのですか。

**中村**: それはない。高橋さんは東京都水道局に行っていて後に守谷町役場に入った経緯があって主に取手中心に交流があり、仲間同士の中から県の連合と関係を持とうかということになりました。

中村:近くでは取手、石岡、土浦、水海道には既に体育協会がありました。守谷はその点からは後進だったので、仲間の姿を見て高橋さんが守谷にも体育協会を作ろうとのことになりました。行政で作ろうといって作ったわけではなく、既にできている団体を参考に守谷でも作ろうということになり作りました。仲間も多くいました。

高梨:他の市町村もそのころあったのですか。

塚原:大体同じような時期にできたのではないか。

**大久保**:守谷はスポーツ関係では遅れていたのかな。

**中村:**守谷は行政の谷間にあり、県の機関は水海道・収手にはあったが守谷にはありませんでした。登記所はあったけども。

**大久保**:農業の町だったのでしょうね。

**中村**:農業の町といっても、伊奈・谷和原のような広い田ではなく谷津田が多かった。当時、水海道・取手・伊奈・谷和原から 見ると守谷というのは乏しいというところでした。 **中田**:昭和43年から発足したというのは確認できました。その後は変化ありますか。このころは野球は町の中だけではなく、対 外的なものも盛んでした。

私も昭和42年に社会に出て野球が好きだったものですから、地元チームで軟式野球を昭和50年ごろまでやっており、高橋 さんにはずいぶん指導をうけた覚えはあります。その他の部についてどのくらいあましたか。

大久保:昭和42年の頃サッカーもありました。

中田:昭和43年9月の守谷町広報の記事には近く体育協会発足、サッカー部員など募集、野球、山岳、剣道・サッカー・パレー・ テニス部があるという記事が載っています。昭和47年7月の守谷町広報記事には体協の紹介記事があり次の部があると紹介さ れています、野球(部長:高橋吉次)、サッカー(古谷孝一)、テニス(下村文男)、バレーボール(池田政雄)、剣道(鈴木泰 雄)、山岳(栗原岩男)、バスケットボール(豊島隆一)、柔道(相良文英)、陸上(酒井雅巳)とあったのですが、塚原さんは その当時体育指導委員だったんですね。

**塚原**: 当時、スポーツとなると学校の先生はよく引っ張り出されました。

**大久保**: 当時サッカーの練習場や道具がないということで教育委員会によく行きました。当時担当の成島通之さんに頼んで教育 委員会に負担してもらい町内の椎名製作所にゴールポストを製作依頼し、明星電気のグラウンドに置かせてもらいました。

**中村:**柔道部の相良さんとういうのは前川製作所の人だな。バレーボールの池田さんは明星電気の人。

塚原:昭和47年の頃は学校の体育館とか部活動の先生に頼らざるを得なかった。パスケット部代表の豊島隆一さん、体育指導委員で私、北村哲朗さん、浅川幸男さんがいる。私の後、小橋央幸さんは教育委員会で社会教育主事をやった。発足当時は、小橋さんが担当だった。

中田:後はそんなに変化はないのかな。昭和43年に発足したというのは間違いないでしょうから。

高梨;発足当時は最初からそんなに盛り上がらなかったでしょうから。

**塚原**:自然発生的にだんだん増えていきました。その中心が野球だった。守谷のスポーツは野球でした。あの頃は毎週守谷小のグラウンドでよく野球をやっていました。しばらくは野球中心でした。

**中村**:都市対抗野球があの頃人気があったね。

塚原:守谷に白元の女子プロを招いて数回試合をやったこともあった。

**中田**: その試合私も投げている。高橋吉次さんに言われて、結構いいピッチングをしました。 中村さんが会長であったけども高橋吉次さんが体育協会発足には骨を折ったということでしょうか。

中村:そうです。

**中田**:他の協会の記念誌を見ると、うちのように何もないからという風にラフに作ってあるところもある。40年もたって何の歴史 を書いたものがないというのも不思議だし、後世にきちんとした歴史を残しておくというのもわれわれの責務であると思い ます。

高製:設備なんかもパレーボールを外でやっている写真があるし、学校のグラウンドくらいしかなかったんでしょうから。

中田:体育館は、昭和39年に大井沢中と統合された守谷中学校ができた以降にできました。

事務局:守谷中の体育館は昭和41年完成です。

中村:守谷は体育·文化·芸術は遅れていました。

**塚原**:そういう点ではみんな飢えていたから自然に協会ができてきました。文化協会なんかもそうです。何にもないのだから、 農業祭くらいしかなかった。明星電気の古い校舎で産業祭というか農業祭みたいなのをやりました。その時に絵を描いてい る連中が集まって文化祭を始めたのが文化祭、今の芸術祭の走りでした。

高梨:文化協会と体育協会ではどちらの方が発足が早いのですか。

**塚原**:体育協会の方がずっと早い。文化協会は今年33年。行政主導ではなく、文化協会も自然にできてきました。どちらの団体 も学校の先生の助けがあったわけです。

中村:教育委員会とは密接な関係を持っていました。

**中田**:協会の発足当時のお話を聞かせていただきましが、大体このようなとこでしょうか。今回はじめて記念誌を作成しますが、 初めてなので上手に作るのは難しい。今後これを元に肉付けされていけば良いと思っています。

本日は中村初代会長、塚原さんの忙しいところおいでいただきありがとうございました。

## 軟式野球

守谷市軟式野球連盟の歴史は古く、「守谷市体育協会」の前身である「守谷町体育協会」発足以前より活動していました。体育協会発足の折は、当時の野球部会長であった 故 高橋吉次氏 が中心となって協会がスタートしております。以後、体育協会野球部として活動を続けていました。現在は、守谷市軟式野球連盟と名称を変更して活動しています。

連盟は、軟式野球を通じて、市内の青少年の健全育成、スポーツマンシップの高揚、地域住民の親睦、体力増進のため40年以上にわたり活動を続けています。現在の活動は、市長旗争奪市民野球大会として春季・秋季大会を開催しています。特に、春季大会の優秀チーム(3チーム)は取手・守谷・利根町軟式野球大会に出場しています。参加チームは、以前は50チーム程度の参加がありましたが、現在は15チームぐらいに減少しています。市内の野球施設も充実しており、競技人口を増加させ、大会を盛り上げていきたいと努力しています。

当連盟は、チームを単位とした組織ですので、同 好の志を募りチームを結成して大会に参加してくだ さい。また、野球はやりたいが「仲間がいない」 「守谷市に移って間がないのでチームが作れない」 「まだまだ野球を楽しみたいが年齢的に」等がありま したら事務局までご連絡をくだされば、チームを紹 介できますので、ご連絡をお待ちしています。なお、 守谷市には、少年野球・シニア野球のチームもあり ますので、事務局までお問い合わせください。

現在当連盟では、野球の審判員を募集しています。 審判員の資格をお持ちの方、資格はないが審判員を やってみたいという方は、連盟事務局までご連絡く ださい。

#### 連絡先

守谷市軟式野球連盟 会長 椿 文嶺 電話 0297-48-1088



昭和53年 春季町民野球大会(常総野球場)





昭和57年 春季町民野球大会 (明星電気グラウンド)





昭和60年 板戸井野球場開き兼春季町民野球大会



平成19年 秋季市民軟式野球大会(常総野球場)



平成20年 秋季市民軟式野球大会(常総野球場)

## ソフトテニス

守谷市体育協会ソフトテニス部の歴史は、昭和38 年にさかのぼるものと聞き及んでおります。昭和37 年に体育指導委員の要綱が制定されたことに伴って、 庭球部が結成されました。発足時は「軟式庭球部」 という名称でした。

当時は練習を中心に活動しておりましたが、昭和47年、部員の確保も兼ねて第1回の町民軟式庭球大会を実施するに至りました。会場は、明星電気株式会社(現在のロックシティ)のテニスコートをお借りして、参加人数は本当に少なかったと記憶しておりますが、それでも賞品獲得を目指して熱い戦いが繰り広げられました。その後の数年間は、明星電気株式会社のテニスコートで大会を行ってきましたが、ソフトテニス人口が減って来たこともあり、細々とした大会が続きました。

しかし、昭和57年から南・北両団地をはじめ、民間デベロッパーによります宅地開発が進み、これらへの入居が始まり、人口が急増すると共に、ソフトテニスを愛好する方も増えてきました。そして、我が庭球部へ入部する方も増え、その方々が中心とな

って活動するようになり、練習をはじめ、一般(フリー)の方の大会への参加も増えたため、昭和53年に完成された常総広域運動公園のテニスコートに会場を移しての大会開催となりました。

平成5年には軟式庭球のルールが改正され、前衛も サービスをすることになったり、ファイナルセット にはサービスを交互に行い、7ポイント先取制とな ったり、そして名称も「軟式庭球」から「ソフトテ ニス」へと変わりました。

大会は、春・秋の年2回行うことになり、平成13年度から春は実力・技術向上を目的として、他市町村からの参加を集うオープン大会とし、秋は市内在住・在勤者での大会といたしました。平成17年度には、春・秋の大会に加え、つくばエクスプレスの開通(8月24日開通)を記念とした守谷オープンシニアソフトテニス大会(年齢別3階級で実施)を開催し、現在も引き続き実施しております。

また, 我がソフトテニス部では, 会員の親睦と交流を深めるため, 会員の家族も含めた合宿やバーベキュー, お花見なども行っております。

会員は、18歳の若者から古希(77歳)を迎えたベ テランまでのメンバー構成となっており、世代間を 超えた老若男女が、定期練習、そしてお楽しみ会で



ソフトテニス部のみなさん

あるクラブ内大会などを和気あいあいと行っており ます。

定期練習は、木曜日は、19時から守中体育館で社会人や学生などの現役バリバリの若者達、金曜日10時からは、立沢公園で定年退職者やママさんクラブのメンバー、土曜日11時からは、常総広域運動公園テニスコートで社会人、学生、定年退職者、ママさんを含めた全体練習を行っております。

ソフトテニスは、ラケットとシューズがあれば気 軽に出来るスポーツであることから、50歳を過ぎて から始めたメンバーもおり、現在75歳の後期高齢者 となってからも、若者達に混じりプレーをしていま すので、正に生涯学習に適したスポーツと言えるの ではないかと感じているところです。

「健康管理・運動不足の解消・地域の人達の交流・ 地区大会への出場」がモットーのクラブです。

これからも幅広い年齢層から会員を増やし、技術の向上と親睦を更に深め、意義のある、楽しく健康づくりができる市民交流の場となりえるようなクラブにしていきたいと思っておりますので、時間と体力を持て余している方は積極的にご入会ください。お待ちしております。

#### ●連絡先

練習日	場所	時間	連絡先
木曜日	守谷中学校 体育館	19時~22時	原 田 090-8946-5709
金曜日	立沢公園 テニスコート	10時~12時	佐 野 0297-48-7427
土曜日	常総運動公園 テニスコート	11時~15時	原 田 090-8946-5709



親睦を深める花見(立沢公園)

## ラグビー

常総RFCは、1974年に守谷RFCとして創設された、 今年創部34周年を迎えたチームである。現在の守谷 市を中心とした近在の地域を含めた地域クラブとし てのスタートであり、守谷町役場、谷和原町商工会、 前川製作所などに所属しているメンバーが中心とな っての設立である。設立当初の部長は、現守谷市長 の会田真一氏であり、当時は町議会議員の時代であ る。監督は櫛引道徳、主将は小浜正己であった。ラ グビー経験者が少ない中、楽しく、そして強さを求 めてのスタートであった。口こみで小学生を練習に 誘った原点もこの頃であった。(写真下)

創部3年目に茨城県社会人リーグに加盟し、Bリーグとして県内のチームとの試合を通じてチームは徐々にではあるが強くなっていった。「守谷ラグビーフェスティバル」の開催もこの頃からであり、常総広域運動公園を会場として毎年の恒例行事となっていった。ある年のフェスティバルでは、高校生チームの指導を目的に元日本代表の山本 巌氏と大東和美氏を招いたこともあった。また、県リーグに加盟しながらも、県南の筑波大Bチームなどとの交流

を広め、県南選抜チームとして松戸自衛隊と交流試 合も行った。この試合の選抜チームのNO.8は現茗渓 学園ラグビー部部長の柴田 淳氏(校長先生)であ った。

この頃発足当時の活動を全面的に支援して頂いた 企業が前川製作所である。部員の手作りではあるが、 全面芝のグラウンドを常に使用することを許可して 頂けたことがチームを一つにするための「場」となった。現在も県リーグ戦の会場となっているこのグ ラウンドは、100m×68m、インゴール10mの公式グ ラウンドとして活用されている。茨城県内のみなら ず、交通網の発達から都心まで40分という利便性も 加味されて、近県のチームも数多く試合を行ってい る。関東学生クラブ選手権の会場としても利用され ている。前川製作所へ、この誌上をお借りして感謝 の意を表したい。

創部10周年の1984年,守谷クラブは,地域クラブとしての地域の拡大を目的にチーム名を「常総RFC」と改名することとなった。この頃からチームは地域密着ということを強く意識し始めてきた。茨城県社会人リーグの1部リーグを活動の舞台に変えてきた



設立時代(守谷RFC)/常総公園

常総RFCは、県内の強豪チームに胸を借りながらの 切磋琢磨が続いた。ポパイRFC、水戸クラブ、MIC などからたくさんのことを学んだ。

(次の20周年を迎えるまでの歴代の主将)

初代 小浜正己,二代目 平野雅彦,三代目 綿 引優尚,四代目 井上和典

創部20周年の1994年、常総RFCは、20周年を記念してニュージーランド遠征を企画した。団長小浜正己、主将長野直之、主務大喜多昭夫以下家族、友人を含めた総勢40名の大ツアーである。目的地は、ロトルアとオークランドである。8月の連休を利用しての2試合の対戦相手は、どちらもU21のチームであった。この試合で得たものは限りなく大きなものとして残った。ロトルアではオフィシャルな歓迎を受けた。地元の小学校5年生がマオリ族の衣装で迎えてくれたことを昨日のことのように思い出す。常総RFCも自前の「ハカ」で応えた。

このニュージーランドで得たことの最大なポイントは、ラグビーを通じた「文化」そのものであった。クラブとは何か?地域社会におけるスポーツとしてのラグビーの存在、試合があると集まってくる老若男女。こんなことがあった。試合のあとのファンク

ションで70歳になるご婦人から責任者である団長が 呼ばれた。「常総RFCのMan Of The Machは右WTB NO.14よ。ここに連れてきて!」凄い国だと思った。

ニュージーランドから帰国後の1994年のシーズン, 常総RFCは茨城県の覇者となった。ニュージーランドで得たこと, そしてチームが本当の意味で一つになったことが, 創部20年目にして初の茨城県チャンピオンチームに成した。イワサキRFCのメンバーから「ニュージーランド遠征が実りましたね」と言われた。この言葉を今も憶えている。まさにノーサイドだった。

翌年1995年、初めて東日本クラブ選手権への出場を決めた常総RFCは、関東協会クラブ委員会から「常総旋風!」といわれる活躍を見せた。東日本の3位である。菅平、熊谷、札幌月寒、江戸川と会場を一流グラウンドとしての戦いは、常総RFCの名を東日本に残した。そして、常総RFCの20年の歴史が、3位の実績のもと「全国クラブ選手権」出場へと続いた。

「第3回全国クラブラグビー選手権」は、岡山の美作ラグビー場で開催された。常総RFCは九州第一代表の吉四六RFCと対戦した。善戦したものの、19-27で惜敗であったが「歴史」は確実に残った。



創部20周年頃/ニュージーランド遠征時代

この年から3年連続で東日本クラブ選手権へ出場した常総RFCは、東日本の一回戦よりも厳しい茨城県の代表枠をかけた県の秋季リーグ戦、春季トーナメント戦に勝利するべく練習、練習試合を続けるが、イワサキピッグノーズRFC、ツクバリアンズRFCの壁は厚く、以降東日本クラブ選手権への出場を阻まれている。2004年の東日本クラブ選手権出場を賭けたツクバリアンズ戦も31:32とあと一歩で代表を得るに至らなかった。

チームの若返りと世代交代というクラブチームと しての大きな問題が常につきまとう状況ではあるが、 組織の充実と運営能力の向上を日々の目的として活 動を続けていきたいと考えている。

(この10年間の歴代主将)

部長 安達孝志,副部長 小浜正己 主将 五代目 長野直之,六代目 阿部直樹, 七代目 石塚千明,八代目 古滝裕人, 九代目 稲葉忠司,

(現在までの歴代主将)

部長 小浜正己 副部長 阿部直樹

監督 長野直之

主将 十代目 武田有一郎

十一代目 (現) 川上剛司

34周年を迎えた常総RFCは、県内県外にかかわらず、たくさんの友人を作ってきた。茨城県社会人リーグで培ってきたチームとの交流。関東近在の各県を代表するようなチームを進めていく原点としてこれからも継続していきたいと考えている。そして、スポーツクラブとしての社会貢献を真面目に考えていきたいと考えている。

みなさんはご存知ですか?守谷ハーフマラソンの 駐車場係りが常総RFCのメンバーだという事を!

最後に、同じ組織として活動している「常総ジュニアRFC」とのリンクにも一工夫できればと考えている。やはりキーワードは、「地域密着」しかなさそうだな。

以上 執筆者 小浜 正己



1995年全国選手権出場会場から



前川グラウンドの交流風景



34周年/試合後の家族仲間風景(部室前)

## バスケットボール

バスケットボール連盟が設立される前,守谷町体育協会バスケットボールチームとして男子2チーム・女子1チーム,部員数は男女合わせて39名で活動をしていました。守谷町近隣大会を始め、常総広域大会や取手大会,また県西地区の市町村チームが主体の岩井市(現在の坂東市)近隣大会等に積極的に参加し、数々の好成績を収めてきました。

そして平成4年7月に守谷町バスケットボール連盟 (現在の守谷市バスケットボール連盟) が設立され、その後連盟主催の町内大会 (現在の守谷市バスケットボール連盟大会) を年2回開催し、平成20年11月には第34回の連盟大会を無事開催することが出来ました。

連盟設立時は加入チーム8チームでのスタートでしたが、現在は男子9チーム・女子2チームの合計11チームが所属しています。各チームの年齢層は、20代・30代のメンバーで構成された若いチームから、20代~50代の幅広い年齢層で構成されたチームまで、いるいろなチームが連盟に加入していますが、どのチームも「バスケットボールをこよなく愛する」チー

ムばかりです。

当連盟では、選手としての技術向上及び審判員と しての講習会、そして加盟チーム同士の親睦や年齢 の壁を越えた楽しいバスケットボールの普及に積極 的に取り組んでいます。

守谷市在住・在勤のメンバー構成チームで連盟に 加入されていないチーム (特に女子チーム) があり ましたら、是非連盟への加入をお待ちしております。 一緒に楽しく活動してみませんか!!!

## ■年間大会予定■

守谷市バスケットボール連盟大会(連盟主催): 年二回(春・秋)開催

守谷市民バスケットボール大会(教育委員会共 催):年一回開催

#### 連絡先

守谷市バスケットボール連盟 会長 五十川崇雄 電話 0297-48-2479



昭和61年 守谷町近隣バスケットボール大会 守谷高校体育館



平成19年1月 市民バスケットボール大会 常総運動公園総合体育館



平成20年1月 市民バスケットボール大会 常総運動公園総合体育館



平成21年3月 市民バスケットボール大会 常総運動公園総合体育館

## バレーボール

バレーボール連盟が発足して24年が経ち、現在、 連盟加盟チームは4チームです。

チーム数は少ないのですが、その為加盟チーム間の親睦も一層深まり、近隣対抗試合等の経験も増えて着実に実績も上がってまいりました。バレーボールを通して健康増進と共にコミュニケーション作りの場としてますます発展することを願っております。

また、これからも楽しく誰でも参加できるバレーボールを目指していきたいと思います。

#### 連絡先

平成20年度 連盟会長

稲毛田 緑

電話 0297-46-1449

## **♦**Mickey**♦**

新星Mickeyが誕生して早5年が経ちます。 子育でをしながら練習時間をとるのは大変でしたが 「これが私達の生きる道」と感じ、日々楽しく練習し ています。監督は技術面でも精神面でも個性の強い 選手をよくまとめてくれます。試合前は異常に静か な人、せっかちになる人、やたら気合の入る人、の んびり構える人とさまざまですが、いざ試合が始ま ると気持ちが自然と一つになり、みんな真剣そのも のです。目標は平均年齢が60歳になるまではこのメ ンバーでまだまだやりまっせ~。Mickeyのモ ットーは「自画自賛」です。自分のプレーにいかに 酔いしれて自分をほめてあげられるかが勝利のカギ です。これさえできればこわいものなし(^D^)

## ◆フェニックス◆

体育協会発足40周年、おめでとうございます。

バレーボール連盟も昭和59年発足以来,加盟チーム同士,近隣対抗試合など、参加させていただきながら、多くの経験を通して、親睦を深め、時には競い合い、バレーボールの楽しさ、厳しさ、喜び、仲間の大切さを感じています。

各チームとも、守谷市内の小中学校の体育館をお借りして、日々練習に励み、また審判講習を開催し

## ●沿革

年号	主な活動内容等
昭和45年	家庭婦人バレーホールチームを発足。浅川、塚原先生方の呼びかけ指導で大会ごとに招集。
50年	守谷ママさんバレーボールクラブとして体育協会に加盟
58年	男・女混合チームを発足。 (守谷クラブ)
59年	守谷ママさんより一部分離。(市内8チームが同好会として存在)
60年	8チームにより親善大会を開催。(現在の市民バレーボール大会)
61年	バレーボール協会発足。 (ママさん・6チーム、守谷クラブ 男性1チーム・女性1チーム
62年	守谷ママさんクラブ吸収。
同年	バレーボール協会をバレーボール連盟に名称変更後、体育協会に加盟。(9チーム)
63年	秋季大会開催。
平成 2年	第1回近隣大会開催 〈利根町・藤代・龍ヶ崎・伊奈・谷和原・水海道・岩井・守谷 合計18チームが参加〉 稚チーム 県女子6人制 準優勝

## ●平成20年度

月日	主な活動内容等	
5月18日	第27回守谷市春季大会〈優勝	飛鳥クラブ)
6月29日	6月29日 守谷市民バレーボール大会	
7月 6日	取手市夏季近隣バレーボール大会	参加チーム:Mickey・オールブラックス
7月13日	坂東市近隣バレーボール大会	参加チーム:飛鳥クラブ
7月27日	取手市近隣大会	参加チーム:飛鳥クラブ・オールブラックス
8月17日	常総市近隣大会	参加チーム:飛鳥クラブ・Mickey
10月19日	守谷市秋季大会(優勝 Mickey)	
10月26日	守谷市民スポーツフェスティバル(綱引き大会に参加し、見事優勝	
11月16日	取手市秋季近隣市町村バレー ボール大会	参加チーム:Mickey・フェニックス
11月23日	利根町長杯	参加チーム:飛島クラブ・オールブラックス
11月30日	第21回守谷市近隣大会	優勝:飛鳥クラフ
H21年2月	つくば市長杯	参加チーム:飛鳥クラブ・オールブラックス

て技能と審判知識のレベルアップにがんばっています。市民大会の開催を通じて、若い方や男性もバレー愛好者は増えていると思いますが、連盟加入チームは少ない状態です。全日本バレーもチョット低迷中ですが、たくさんのチーム参加を頂いて活性化につなげたいと思います。是非お願いします。

私達,フェニックスも毎週,火曜日と土曜日の夜,守谷中と大井沢小体育館で家の仕事を片付けた後集まり,汗を流し,ボールをつなぎ,心をつないで仲間と楽しくバレーしています。

楽しみながらバレー体験しませんか?

## ◆飛鳥クラブ◆

飛鳥クラブは創立23年。「鳥のように勢いよく飛び立ち、勝利に向かってはばたいていこう!」という意味をこめ、「飛鳥クラブ」を発足しました。

現在部員は12名。週一回楽しく練習しています。 笑いの絶えない練習の中にも向上心を持って取り 組む姿があり、大会においても練習の成果を徐々に 発揮しつつあります。

これからも、いつまでも長くバレーを楽しみなが ら、がんばっていきたいと思います。

#### ◆オールブラックス◆

早いもので気が付けば、オールブラックスを結成 して15年が経っていました。試合に出られない程人 数が足りなくて悔しい思いを沢山してきました。

チームを去った人。そして、嬉しかった事は元気 で若い人達が入ってくれた事です。私達もチームも 刺激を受けながら活性化され何とかここまでこれま した。

連盟にも加入せずにいたのですが、メンバーの協力もあり19年度に加入させて頂きました。まだまだ弱小チームではありますが、一点でも多く取れるようにと練習に励んでいます。

身体がもう駄目だと感じるまで、大好きなバレー を楽しく長く続けていけたらいいなと思っています。



平成20年度 第21回守谷市近隣バレーボール大会



平成18年度守谷市民スポーツフェスティバル (日立佐和によるバレーボールクリニック)



平成20年度 連盟集合写真

## 拉卓

守谷卓球クラブは、卓球の振興と会員相互の親睦 及び技術の向上を目指して昭和55年9月に結成され、昭和56年7月には体育協会に加盟しました。昭和57年 12月5日には、黒内小学校体育館で第一回町民卓球大 会が開催され、現在の守谷市民卓球大会に至ってお ります。小学生から60代まで幅広い参加者があり、 毎年盛大に行われています。この大会は新旧住民の コミュニケーションを図る上でも大いに役立ってい ると思います。

今から10年くらい前にさかのぼると、新しいメンバーが続々と入部してきた時期でもありました。メンバーを見ると、守谷中学校出身者だけでなく、他県出身者で高校・大学でそれなりの成績(インターハイ出場等)を残した人達です。それも40代に入った人達が守谷中学校卓球場に集まってきたのです。

最初は気持ち良く汗をかいて、おいしいビールを 飲もうという軽い感覚で始まりましたが、昔、猛特 訓を積んで結果を残したメンバーには負けず嫌いが 多く、週2回の練習では物足りず、取手市や旧藤代町 のクラブに練習に行く人も出るほど熱中しました。 このような人達を見た若いメンバーも, つられて 以前より練習するようになり, 力をつけた時代でも ありました。みんなが一生懸命練習し, 強くなろう と努力した結果は, 3年後ぐらいに花が咲きました。

具体的な例を挙げると、つくば産総研で行われている学園リーグという団体戦(上位1部から下位6部まである)では中間の3~4部に属していましたが、上位の1部まで上り詰め、さらに1部で優勝するまでになりました。2004年には、茨城県南地区の近隣市町村大会で男女アベック優勝も経験することが出来ました。この時は、女子にも非常に有望なメンバーがおり、大変強かった時期でもあります。

この時期を一言で締めると、活気に満ち溢れた強い守谷卓球クラブの黄金時代でもありました。また、試合後に祝勝会/反省会が毎回のように行われ、卓球について熱く語り合いました。

近年の守谷市の卓球事情ですが、指導者不足の為か、中学校や高校に卓球部のない学校もあるようで す。

我が守谷卓球クラブの会員数も、全体的には減少 しております。しかしながら、最近になって初心者 の方や中学・高校生の方が少しずつ増えてきました。 初心者の方には、中高年になって初めてラケットを



練習風景 平成20年10月

握ったいう方もおりますが、持ち前の努力とやる気で、みるみる上達しております。また、中学・高校生は県大会上位を目指して部活動と我がクラブを掛け持ちし、日々練習に励んでおります。来年はきっと良い成績を残してくれることでしょう。

今までは経験者中心の活動が主でしたが、今後は、 初心者(中高年)の方の意見を取り入れた練習プロ グラムを考えていかなければと思っております。ま た、我がクラブは女性会員の方が少ないのが現状で す。

現代のスポーツ界は男性より女性の方がパワーがあります。ぜひとも女性会員の増員を図り、女性持ち前の元気や明るさをクラブに生かしていければと思います。

体育協会40周年の年は、北京オリンピックの年でもありました。水泳男子平泳ぎでは、北島康介選手の2大会連続の金メダルや女子ソフトボールの金メダルは多くの人に感動を与え、「上野の413球」は流行語にもなる程でした。卓球では、福原愛選手や平野早矢香選手の活躍で女子団体が4位、男子団体が5位となり、メダルまであと一歩の成績でした。卓球界はこれからますます期待できることでしょう。

最後になりましたが、今後とも守谷市のスポーツ

振興及び体育協会のますますのご発展とご健勝をお 祈りして結びの言葉とさせて頂きます。



クラブ員紹介 平成20年10月

## ゲートボール

ゲートボールは、古くから、ヨーロッパで行われていた「クロッケー」にヒントを得て、昭和22年、戦後の混乱の中で、満足な道具の無い、子供達のスポーツとして北海道で生まれました。

昭和28年5月に「日本ゲートボール連合」が設立されましたが、昭和34年当時はスポーツを楽しむ、精神的・経済的・時間的にも余裕がなく、あまり普及発展することは、有りませんでした。しかし昭和45年頃より、国民生活の向上が見られるようになり、各地方でもゲートボールの普及活動が開始されるようになりました。その後全国的に広まったのは、昭和51年に第18回健康体力づくり運動推進全国大会において、実践活動種目として、ゲートボールが公開され、全国の体育指導員の注目を引き、その2年後あたりからゲートボールは爆発的なブームとなり、愛好者が急増して、競技人口が増え、大・小さまざまの競技会・大会が開催されるようになりました。

平成初期には、守谷各地域にゲートボール場を開設し、活発に活動されるようになり、近隣の市町村に指導に出掛け普及活動が行われ、地区対抗戦も盛

んに開催されるようになりました。町内では薬師台 コートで37チーム(約200人)も参加し、盛大 に開催された時代もあり、それを物語っているのが 当時の立派な優勝旗を現在でも市内の「わくわくス ポーツ大会」でお披露目しています。(写真 下)

しかし平成10年ごろをピークに、年月の経過と共 に、各地区で元気に楽しんでいる姿もめっきり減少 傾向になり、愛好者も高齢となり変化が見られるよ うになりました。

スポーツも多様化され、ゲートボールは運動量が 少ないので、高齢者のスポーツというイメージがあ り普及が少なくなったと思われます。

競技は5人対5人で、両チームは赤・白5個ずつのボールを使用し、1番から10番まで赤白交互にプレーを行い、各競技者は、自球をスタートエリヤにおいて、スティックで打ち、第1ゲート通過が成立すると、続けて打つことができ、第2ゲートへ、第3ゲートを通過したボールがゴールポールに当たると上がりとなります。

その間に、他球に当てるとタッチプレーが成立し、 その他球と自球を接触させて足で踏み自球を打ち、 その衝撃で他球を移動させたり、アウトボールにす ることで自チーム得点とし、ボールがゲートを順番



平成7年5月 守谷町ゲートボール選手権大会

に通過するごとに1点・上がりポールに当てると2点となり、上がりとなった競技者の得点は5点となり総得点の多いチームが勝ちとなります。各チームが連携を取りながら、さまざまな作戦をとり、プレーすることが出来るところに魅力があるスポーツです。

老いては足からやってくると言われているように 青壮年層より、健やかな日々を送るには、運動を続 ける努力が必用で仲間とボールを打って気分転換、 ストレス解消とさまざまなプレーをすることによる、 頭脳のトレーニングにもなり、老化現象を少なくす る効果があると考えられます。

ゲートボールも最近指導員の活動努力もあり徐々に認められるようになり、再び普及の傾向にあります。今までは熟練者も初心者も一緒に競技を行っていましたが、現在では親睦と交流を深めるためのヘルシー大会「たのしく遊ぼうゲートボール」をキャッチフレーズに守谷市ゲートボールは実施しています。又、県連合会では、総合ゲートボール大会と称して、次の開催を行っています。

- (1) ヘルシーゲートボール ゲートボールを楽しく遊ぶ愛好者クラス大会
- (2) G-1 (上級者大会) 上級者クラスで全国大会出場予餞会
- (3) G-2 (中級者大会) 中級クラスで競技の結果,上級を目指す

以上のように3段階に区分され、愛好者の体力・ 技量に応じたゲートボールが実施されています。又、 年齢別・性別等の大会も有ります。

誰にでも気軽に実行できるので、おもしろさを味 わいたい人・技能を磨き、奥深さを追求して、常に 勝利を目指す人まで多くの愛好仲間と楽しめるスポ ーツです。(写真 下)

#### 連絡先

守谷市ゲートボール協会 会長 桜井 昇 電話 0297-48-5485



平成20年7月16日 取手近隣ゲートボール大会

## ソフトボール

当ソフトボール部は、昭和56年にそれまでママさんソフトや各同好者同志で行っていたソフトボールチームを守谷町のソフトボール部として結成しました。そして翌年には町の体育協会に加盟し、本格的に町内体育・運動部会として活動してきました。

当部のこれまでの活動は右記のとおりですが、当時は、ママさんチームが28チームと多く大変なブームで、男子チーム13チームを圧倒する勢いでしたが、年々働きに出る方々や家事の都合などで部員数が減少していき、現在ではわずか1チームとなってしまいました。

一方, 男子チームは当初チーム数が少なかったものの徐々に増加し, 現在は加盟数18チームとなっています。

ソフトボールは、老若男女の幅広い年代層が手軽 に楽しめること、特に日頃勤めなどで地域住民と付 き合う機会の少ないお父さん方々は、休日毎にソフ トボールを通じて地域・市内住民と親睦が図られる こと、また、体力や健康の向上・維持及びストレス の発散など数多くの効果を得られるスポーツである ことから、これから益々市民の手軽な運動・健康づくり活動及び親睦・交流の場として推進していく役割を担っていると考えています。

現状の課題は、19年度末まで永く使用させていただいていた「クレトイシグラウンド」が使用できなくなり、平成20年度からは利根川河川敷を利用していますが、ソフトボールのグラウンドとしての整備が出来ておらず雑草が生い茂り、特に夏場は毎週草刈をしなければ草に足をとられたりボールが見えなくなってしまうなど文字通りの草野球状況にあり、特にスポーツ災害防止の観点からは早急なグラウンド整備と代替グラウンドの確保が急務と考えています。

近隣市町村によっては、ソフトボール専用の球場 設備を保有し、街以外の各種大会を誘致し開催して いる所もあり、羨ましく感じるところです。

守谷市においても将来的には、都心に近く日本一 過ごしやすい街として誇れるソフトボール球場設備 が保有できるよう働きかけると共に行政の力沿えを 期待したいと思います。

### 連絡先

守谷市ソフトボール協会 会長 武田 隆造 電話 0297-48-3340



平成12年 県南女子ソフトボール大会(クレトイシグラウンド)



平成15年 県南男子ソフトボール大会(クレトイシグラウンド)



平成16年 第28回茨城県お父さんソフトボール大会(クレトイシグラウンド)

#### ●沿革

年号	主な活動内容等			
昭和54年				
	ACTION OF A STATE OF A			
昭和56年	○守谷町ソフトボール部結成 ○9/27 学習会開催 場所: 黒内小学校 講師: 西豊田小学校教頭 桜井 昭司先生			
昭和57年	○守谷町体育協会に加盟 <初代会長:染谷 洋氏> 加盟チーム数:男子13チーム、女子28チーム ○茨城県ソフトボール協会第3種公認審判員認定会初参加(9名取得)			
昭和58年	○S58/8守谷町ソフトボール「審判部」発足 ・日本ソフトボール協会公認審判員登録45名 ・各種ソフトボール大会へ派遣(町内大会、近隣地市町村大会、 県民スポーツレクリエーション祭、県大会)			
昭和59年	○二代目会長:武田 隆造氏就任 ○読売杯争奪第3回近隣市町村ママさんソフトボール大会開催場所:守谷町クレトイシグラウンド主催:守谷町体育協会ソフトボール部後援:守谷町少フトボール審判部:守谷町体育指海委員会協賛:読売新聞社参加チーム総数:40チーム守谷町参加チーム:クッキーズ、原チェリーズ、レディサーティーズアスターズ、エンゼルス、北薗チーム			
昭和60年	○茨城県ソフトボール協会に加盟 ○第1回茨城県壮年大会に明星チームが初参加(真壁町民運動場) ○茨城県県民フェスティバルに守谷町選抜チームが参加し準優勝 ○ソフトボール部加盟チーム総数:20チーム(ママさん含む) ○茨城県ソフトボール協会公認審判員総数31名(2種2名、3種29名) ○北相馬郡大会に代表チーム出場開始			
昭和61年	○ソフトボール部加盟チーム総数:約30チーム(ママさん含む) ○ソフトボール部加盟チーム総員数:約500名(ママさん含む)			
昭和62年	○第1回守谷町長杯開催(S62/10/4) ○ソフトボール部加盟チーム総数:約23チーム(男子19, ママ4) ○ソフトボール部加盟チーム総員数:約380名(ママさん含む) ○茨城県協会大会お父さん大会出場開始 ○茨城県協会大会加盟親養ソフトボール大会出場開始			
昭和63年	<ul> <li>○ママさんソフトを→女子ソフトに改称</li> <li>○ソフトボール部加盟チーム総数:約25チーム(男子22。女子3)</li> <li>○ソフトボール部加盟チーム総員数:約398名(男子352名,女子46名)</li> <li>○子ども会ソフトボール大会へ審判部員派遣開始</li> </ul>			
平成2年	○ソフトボール部加盟チーム総数:約26チーム(男子23、女子3) ○ソフトボール部加盟チーム総員数:約400名(男・女含む) ○第1回続売・報知杯開催			
平成3年	○守谷町に「東部リーグ」と「ジョイリーク」発足			
平成4年	○ソフトボール部加盟チーム総数: 24チーム(女子1 チーム含む) (1)ダンナスターズ、(2)愛宕けやき台、(3)新愛宕フレンズ、(4)原イーグルス、(5)アスターズ、(6)原チェリーズ、(7)ヤンチャーズ、(8)北園、(9)クレノートン、(10)山王、(11)土塔ソフト、(12)立沢、(13)明星、(14)ダウンタウン、(15)さつき台、(16)城山、(17)原キラーズ、(18)栄町、(19)上町、(20)原ベアーズ、(21)ベンケーズ、(22)とりあえず、(23)清水、(24)とりあえず女子			
平成8年	<ul><li>○第1回町民ファミリーソフトボール大会開催</li><li>○茨城県お父さんソフトボール大会岩井市)で守谷町ソフトボールとして初めて決勝へ進出(上町チーム)</li></ul>			
平成8年	成 8 年			

年号	主な活動内容等
平成12年	●第19回茨城県南地域女子ソフトボール大会開催場所:守谷町クレトイシグラウンド主催:守谷市体育協会主管:守谷市体育協会ソフトボール部後援:守谷市教育委員会:県南女子ソフトボール連盟:内外ゴム株式会社参加チーム総数:11チーム守谷町参加チーム:ポピンズ●第1回伊奈町・守谷町交流ソフトボール大会開催●守谷町で第20回業製信行後援会ソフトボール大会開催●守谷町で第20回業製信行後援会ソフトボール大会開催・11/5クレトイシグラウンド)・守谷町参加12チーム(とりあえずA・B、だんなスターズ、前川製作所ベンケーズ、みずき野ラークス、北園ソフト、ダウンタウン、ドリームナイツ、フレンズ、ボピンズ、清水ファイナルズ)
平成13年	○第1回出身地別親善ソフトボール大会開催 6チーム編成、2ブロック、リーグ戦 ○岩井市近隣市町村ソフトボール大会でとりあえずチーム優勝
平成14年	○2/2 守谷市市制施行に伴い、 名称を「守谷市体育協会ソフトボール部」に改称。 ○守谷市体育協会ソフトボール部ガイド作成 ○岩井市近隣市町村ソフトボール大会でとりあえずチーム2年連続 優勝 ○守谷市で第3種ソフトボール部公認審判員認定会開催(11/24北守谷 公民館)
平成15年	○第1回ソフトボール部新年会開催(1/19坂町公民館) ○第3種ソフトボール公認審判員年度登録会開催(3/23中央公民館)開始 ○第1回ソフトボール部部内花見会(3/30明星電気グラウンド)開始 ○第1回守谷市ソフトボール部審判員フォロー研修実施(5/11クレトイシグラウンド)
平成15年	○守谷市で第3回茨城県南地域男子ソフトボール大会開催(7/20) 場所:守谷市クレトイシグラウンド 主催:県南ソフトボール協会 主管:守谷市体育協会ソフトボール部 後援:守谷市教育委員会 :守谷市体育協会 協賛:内外ゴム株式会社 :ナガセケンコー株式会社 参加17市町村、18チーム 守谷市参加チーム:ニュースターズ、大井沢リバース ○武田会長が茨城県ソフトボール協会から表彰される(7/27) ○岩井市ソフトボール連盟会長杯大会でポピンズ(女子)チーム優勝(8/10 ○土浦市ソフトボール大会でポピンズ(女子)チーム優勝(8/10 ○土浦市ソフトボール大会でポピンズ(女子)チーム優勝(8/10 ○第1回守谷市体育協会ソフトボール部秋季大会開催開始(11/23) <協賛:ASA守谷中央店,薬師台店>
平成16年	○ 茨城県お父さんソフトボール大会守谷市開催に向けてクレトイシグラウンド測量(321) ○ 守谷市で第29回茨城県お父さんソフトボール大会開催(9/12~10/3) 場所:守谷市クレトイシグラウンド 主催:茨城県ソフトボール協会 主管:守谷市体育協会ソフトボール部 後援:守谷市 教育委員会・体育協会、茨城新聞社、ナガセケンコー様、内外ゴム様) 協賃:ナカヤマ・コーボレーション、(南サンスボーツ、自由軒、龍乃島、むらこ志家、サンバレス二葉、かざみ、Lo・gosPa・thos、金太楼鮨、なお井、全根館、(南橋木商会参加83市町村、59チーム(Aブロック16、Bブロック43) 守谷市参加チーム:Aニュースターズ、B清水ファイナルズ
平成19年	○クレトイシグラウンドフィナーレ大会開催(9/23) 以降クレトイシグラウンド使用不可能となる。
平成20年	○主な大会使用グラウンドが、利根川河川敷となる。

## バドミントン

町で活動をしているクラブを集め「何とかしよう」 と、ごく軽い気持ちが、体育協会への加入動機とは 言え、年月の速さと季節とが重なり、感慨深いもの があります。

我がバドミントン連盟は、弱小の8クラブを集め、 昭和60年度に発足、現在に至っています。

現在,市民大会・秋季大会・団体戦・守谷オープンと,5つの大きな大会を開催するまでに躍進した姿は,誰も想像がつかなかったではないでしょうか。

結成当時は、これで上手に行くのだろうかと言う 不安だらけであり、大会を開催すれば、失敗・失 敗・失敗、さらに追い討ちをかける様にクレームの 連続でありました。

幸いにも、クラブの代表者や連盟役員、参加者全 員に支えられて今日までに大きく成長をし、更に飛 躍をし続けています。

さて,バドミントン連盟に与えられた課題は何で あろうか?スポーツを取り巻く環境は、日々大きく 変化をしつつあり、守谷市の場合も、例外とは言え ない様に思えます。それは急速な高年齢化社会、自 由時間や余暇の増加等々が要因として考えられます。

更に、現代社会に生きる私達は、多くのストレス にさらされています。意識を持って、健康や体力の 維持・増進を図る事が出来る様に力を身に付けてお かなければいけない様に思います。

人・スポーツ・健康との関わり方は大変微妙で、 性・年齢・目的によって様々です。スポーツや運動 をすると、無条件で健康に結びつくかと言うとそう でもありません。逆になる事も、十分考えておかな くてはなりません。正しく言えば、健康維持・増進 の為には、スポーツは大変有効的な手段の一つに過 ぎないと思います。

一般的に良く言われる事ではありますが、スポーツと健康の関係は、お酒と健康の関係に良く似ています。健康に良いのかどうかの、明確な回答はありえないし、また個人差によってもまったく違います。この程度ならと言う事がやっかいで、なかなか守れないし守りにくい曲者の様に思います。

スポーツや運動を実施するにあたり、自分にとって適度な刺激と興味を見つけて、長く継続を出来た時、初めてスポーツが健康に良いと、実感と優越感を得る事が出来るのではないでしょうか。

何となく, のんびりとした時を過ごしているので



昭和60年 町民バドミントン大会(高野小体育館)



昭和60年 町民バドミントン大会(高野小体育館)

はなく, 気の会った仲間と楽しく, 一生関わってい けるスポーツや運動を、一つや二つ持ちたいもので す。

最初からレベルの高い運動や、技術に走っても長 続きしません。プロを目指しているのではないので すから。自分の体力の半分位で、無理をせず、じっ くり続ける事が大切です。

健康の為のスポーツならば、自分の健康状態に合 った方法で、興味のある物を好きにやって、自分の 体力に合ったスポーツを選べば良いのではないでし ようか。

今やスポーツは、生活の一部となっています。体 を使って汗を流し、集中力を要するスポーツ「バド ミントン」は、現代ストレス解消の妙薬、と言える のではないでしょうか。

さあ、始めませんか。バドミントン連盟が、活発 な活動発展をするには、熱心な指導者・活動の場・ そして幅広い愛好者がいる事が条件です。

一つの所に留まらず、自由で常にチャレンジをし 続ける連盟でありたいと思います。

## 連絡先

守谷市バドミントン連盟 代表 水海藤一 電話 0297-48-4150 (自宅) 0270-32-1112

メール mitsukait@meisei.co.jp



昭和62年 町民バドミントン大会 (御所ケ丘中体育館)



平成19年6月 市民バドミントン大会(常総運動公園総合体育館) 平成20年5月 市民バドミントン大会(常総運動公園総合体育館)



平成元年 町民バドミントン大会(松前台小体育館)



## ゴルフ

#### ゴルフ部創設からの歴史

当初、守谷町のゴルフ大会を開催するため、商工会青年部が主体となり会場選定や協賛や参加者を募り、昭和50年に記念すべき「第1回守谷町民チャリティーゴルフ大会」を開催しました。それから第16回大会に至るまで守谷町と商工会青年部の主催により継続していましたが、正式に町の体育協会に加盟し「守谷町体育協会ゴルフ部」として気持ち新たにゴルフの楽しさを伝えてまいりました。下記がその活動の歴史です。

### 平成3年3月

守谷町体育協会ゴルフ部 設立 部長 坂 一利 役員・理事 24名

### 同年10月

第17回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 233名

### 平成4年10月

第18回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 180名

## 平成5年10月

第19回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 180名

#### 平成6年10月

第20回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 180名

#### 平成7年10月

第21回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 180名

#### 平成8年10月

第22回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 180名

## 平成9年10月

第23回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 188名

#### 平成10年10月

第24回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 182名

#### 平成11年10月

第25回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 197名

#### 平成12年10月

第26回守谷町民チャリティーゴルフ大会







平成19年10月第33回市民チャリティーゴルフ大会 筑波カントリークラブ

会場:常陽カントリークラブ 参加者 202名

#### 平成13年10月

第27回守谷町民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 197名

※本年より、ジュニアゴルファー育成を目的にファミリ ーゴルフの協力を得て「ジュニアゴルフ教室」を開催。

#### 平成14年10月

第28回守谷市民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 187名

## **同年8月**

ジュニアゴルフ教室開催(ファミリーゴルフ)

## 平成15年10月

第29回守谷市民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 211名

## 同年8月

ジュニアゴルフ教室開催 (ファミリーゴルフ)

## 平成16年10月

第30回守谷市民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 209名

#### 同年8月

ジュニアゴルフ教室開催 (ファミリーゴルフ)

## 平成17年10月

第31回守谷市民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 189名

#### 平成18年 3月

ジュニアゴルフ教室開催 (ファミリーゴルフ) 春休みに 变更

## 同 年10月

第32回守谷市民チャリティーゴルフ大会

会場:常陽カントリークラブ 参加者 197名

## 平成19年 3月

ジュニアゴルフ教室開催(ファミリーゴルフ)

#### 同 年10月

第33回守谷市民チャリティーゴルフ大会

会場:筑波カントリークラブ 参加者 224名

## 平成20年 3月

ジュニアゴルフ教室開催 (ファミリーゴルフ)

平成20年4月に組織改定を行い、平成10年結成した「茨城 県アマチュアゴルフ連盟守谷支部 を守谷市体育協会ゴ ルフ部として登録し、県や市のゴルフ大会に関する窓口 として活動します。また、新たに「チャリティーゴルフ 実行委員会」を設立し本年より市民ゴルフを運営する運 びとなりました。

#### 平成20年10月

第34回守谷市民チャリティーゴルフ大会

会場: 筑波カントリークラブ 参加者 208名







平成20年10月第34回市民チャリティーゴルフ大会 筑波カントリークラブ

## 少林寺拳法

守谷市体育協会40周年おめでとうございます。40年という長い歴史には歴代会長始め事務局の方々、そして多くの先輩方のその時その時でのご尽力が凝縮されております。ここにあらためて慶賀の意を表わさせていただきます。

さて、守谷にて少林寺拳法の練習が始まったのは 平成3年(1991年)10月1日の火曜日でした。当日は 雨天でありましたが、守谷町立守谷中学校武道場に て現在に繋がる第一歩が始まったのでした。私を含 めてわずか5人でのスタートでした。しとしと降る雨 の中、道場に5人の裂帛の気合が響き渡ったのを今で も思い出します。

また,これに先立ち練習場所の確保のため少林寺 拳法の説明に当時の守谷町役場へ赴いた際,中谷さ ん,笠見さんには快く応対いただきました。今でも 大変感謝いたしております。ありがとうございまし た。

この年の12月8日 (日曜日) には、恩師である杉本 啓一郎 法政大学名誉教授はじめ、少林寺拳法を応援 してくださる関係者ご臨席のもと、支部開設式を挙 行しました。参加者13名という小さな式でしたが、 私自身少林寺拳法入門以来18年目の新たな出発でした。参加していただいた現在副支部長の植田明氏始め新入門の拳士たち、この日のために遠方より足を運んでいただいた先生、先輩、後輩方本当にありがとうございました。そして平成5年には関係の方々のご理解とご協力のもと体育協会に加盟することができました。以来17年間、延べ会員数は112名。今日まで挫折することなく続けてこられたのも、守谷市体育協会並びに多くの法縁有志の方々のご支援とご協力の賜物であると心より深謝いたします。

当部も体育協会の一員として守谷市のために,延 いては日本のために少林寺拳法の旨とする「自立し 且つ他と協力できる人づくり」を展開し,真剣に且 つ楽しく練習できるような雰囲気づくりのため自己 研鑽する所存です。

最後に守谷市体育協会の今後益々のご発展と関係 方々のご健勝を祈念し、お祝いの言葉と代えさせて いただきます。

#### 連絡先

守谷市体育協会少林寺拳法部 代表 米地明彦 電話 0297-45-0916



開設式 平成3年12月8日 (守谷中武道場)



演武会 平成14年12月22日 (北守谷公民館)



全日本少年武道錬成大会 平成19年8月11日 (日本武道館)

## 登山・ハイキング

#### ◆歴史・活動方針◆

守谷町在住の霞ヶ浦高校教諭高梨隆が同校山岳部 OB等と登山活動をしていましたが、平成8年3月守谷 山の会を発足させ、守谷町体育協会にも加盟を認められ、今日に至っています。中心メンバーの高梨は 坂場昭雄氏(日本山岳協会副会長・茨城県山岳連盟 会長)が中心になって活動している「すいこう山岳会」のメンバーとして活動し指導を受けていました。発足当時は守谷町(後の守谷市)の主催する富士登 山や尾瀬ハイキングのリーダー役を務め、登山による社会体育の普及に貢献してきました。発足後は、折からの中高年の登山ブームと守谷市の人口増により会員が増え、平成17年には70名の会員が活動しました。最近は加齢により登山から引退する会員も見られるのはさびしい限りですが新入会員もあり中高年中心に元気に活動しています。

平成18年には10周年記念海外登山をネパールランタン谷に遠征して充実した登山を経験しました。定期山行は平成21年2月現在現在109回を重ね、市民を募集しての市民ハイキングは14回を実施してきました。

会の基本方針は安全登山に徹することであり、幸いなことに現在に至るまで遭難事故は皆無であります。安全登山を実践すべく、会員の体力・登山技術の向上に心がけ、体力に応じた山域の選定などに留意しています。登山行為は中高年の健康と体力増進に寄与することは明らかであり、医療費の抑制にも貢献するとその活動が見直されています。市の体育協会の目的であります、市民による健康づくりにおおいに寄与すると自負するものであります。

### ◆活動状況◆

活動の第一は月一回の定期山行です。平成8年から 平成21年2月までに109回の定期山行を実施しました。 大半が貸し切りバスを利用し20人前後の人数で日帰り、または夜行日帰り、一泊二日で山を登っていま す。近年は冬のスキーが人気で温泉とスキーを楽し んでいます。若い時に身に付けたスキーは中高年に なっても、忘れないでスキーを楽しんでいます。な かには60歳過ぎてスキーを覚えて楽しんでいる会員 もいるほどです。クロスカントリースキーやスノー シューハイキングなども取り入れとかく家にこもり がちな季節に積極的にアウトドアライフを楽しんで います。

第二はグループ山行。少人数での山歩き。大勢で



平成13年 5周年記念 北アルプス立山にて



平成18年 10周年記念 ネパールランタン谷にて

は登ることのできない中級山岳以上を対象に登っています。熱心な会員は年に100回も山を登る会員もいます。日本百名山を目標に登る人、同じ山に季節を変えて何回も登る人、登頂にはこだわらず山を楽しむ人、植物が好きで花を見に行く人など、個人の個性によってさまざまな山があります。

第三は市が主催していた尾瀬ハイキングを引き継ぎ、一般市民を対象に市の広報誌で参加者を募集し、一泊二日の日程で登山の普及活動を行っています。 近年は尾瀬ばかりでなく、月山、早池峰、吾妻山、蔵王山、田代山などにも登っています。

第四は月一回のウォーキングを開催。自由参加で 市内や近郊の町をウォーキングしています。費用も かからず登山のトレーニングも兼ねることができる と好評です。

第五は地域に根ざしたボランティア, 筑波清掃登山などを年に1回実施しています。また市のハーフマラソンのボランティアにも協力しています。今後は国内の山に限らず, 海外の山にも挑戦すべく体力と登山技術を向上させるよう努力してまいりたいと思います。

#### ◆今後の課題◆

登山は一般に競技性のない、各人の体力に合わせ

て山を選び、計画を立て、気象、植生など、すべての自然環境に左右されるが奥の深いスポーツです。 他との競争もないし、目標によって、常に達成感の味わえる運動であります。健康のためにウォーキングをしている人が増えましたが、登山は健康増進にはもってこいの運動です。一人でも多くの人が登山の醍醐味を味わい生活に張りと潤いを持って欲しいと思います。足は第二の心臓といわれるほどですが、足を鍛えるという意味では登山は最適なスポーツだと思います。

安全登山に心がけ一人でも多くの市民が登山に親 しむことを願っています。

#### ◆登山ハイキング部の主な活動◆

- ①定期山行・15人~25人くらいの集団登山・春夏秋冬を通じて山に登ります ②グループ登山・車を使って少人数での登山活動
- ③募集登山ハイキング・一般市民から参加者を募集し登山ハイキングを実施
  - 第1回 2001年秋の尾瀬ハイキング
  - 第2回 2002年夏の志賀高原ハイキング
  - 第3回 秋の尾瀬ハイキング
  - 第4回 2003年7月の月山・蔵王登山
  - 第5回 8月吾妻山登山、第6回2004年7月早池峰登山
  - 第7回 2004年秋の尾瀬ハイキング
  - 第8回 春の尾瀬ハイキング
  - 第9回 2005年夏の尾瀬ハイキング
  - 第10回 2007年夏の尾瀬ハイキング
- 第11回 2008年秋の尾瀬ハイキング
- ①スキー、クロスカントリースキー・スノーシューハイキング
- ⑤市内ウォーキング・毎月1回市内をウォーキングしています
- 6 筑波山清掃登山
- 7冬山講習会
- ⑧岩登り講習会



平成19年 北海道の羅臼岳にて

#### 連絡先

守谷市登山・ハイキング部 代表 高梨 隆

電話 0297-48-0655



平成20年 100回記念 飯山鍋倉山にて

## トランポリン

常総運動公園総合体育館にトランポリンがありま す。そんな事を耳にして、使用したいと思ったのが トランポリンを始めるきっかけでした。しかし、資 格がないと使用できないと知り、図書館で日本トラ ンポリン協会の連絡先を探し、自ら日本トランポリ ン協会に連絡をして、勢いで資格を取りに行きまし た。資格を取る所まではこぎつけましたが、教室を 開くまでは、ほど遠いものでした。トランポリンの セットの仕方だってろくにわからない。そこで、ミ ニコミ誌で目にした事がある江戸崎にあるトランポ リン協会の第一人者の江戸崎スポーツクラブの伊藤 先生の所に電話をして押しかけて、練習をさせても らう事にしました。先生もどこのおばさんが何しに 来たかと思われたかも知れません。クラブの子供達 も誰のお母さん?と聞いていました。それでも、休 み休みですが通い続けてきました。

その甲斐あって、第一回目のスポーツフェスティバルに、伊藤先生のお力も借りながら、体験教室を開く事ができました。その時に参加して下さった勝田さんが(現守谷トランポリンクラブ会長)中心となっ

て、十数名でクラブが立ち上がりました。最初は江戸崎から伊藤先生ご夫妻に指導に来て頂いて、しばらく練習をしていました。それから、お母さん方にも指導員としての資格を取得して頂き、今では20数名の指導者のおかげで、6つのクラブの活動ができるような団体になりました。

それから、学びの里の体育館にクラブで中古のトランポリンを購入した物を置かせてもらえるようにお願いし、活動場所を増やし、同時に守谷市障害者福祉センターの方々にも、月一回ですが楽しんでもらえるようになり、三年が過ぎました。その年に体育協会にも加盟させて頂き、平成19年からは夏休みに100名以上の子供達に体験教室を市主催で開催してもらい、お手伝いさせてもらっています。

今では、大野小学校に一台、学びの里にもトランポリンが一台増えて、尚一層多くの方々にトランポリンをやってもらえる機会が増えていくようにしたいと考えています。

今,活動し始めた総合型スポーツクラブの中心的 種目としても更に充実させ,いつかは各小学校に一 台設置させてもらい,子供の居場所などでも活動で きたらいいなあ~と,そしていつかはオリンピック 選手でも出てくるかも?そんな夢もみながら,今後



正しい姿勢で



シンクロの演技

も楽しく安全に指導し仲間が増えて行くように,み んなと協力して活動していきたいと思っています。

## 連絡先

守谷市トランポリン部 代表 藤丸 晶子 電話 0297-48-8319



2005年 茨城県トランポリン育成競技大会 (常総運動公園総合体育館)



2007年 茨城県トランポリン育成競技大会

## グラウンドゴルフ

#### ◆守谷市グラウンドゴルフ協会の歩み◆

グラウンドゴルフは、高齢者向きのスポーツとして、人気のあるスポーツの一種です。

協会設立前は、市内にある8クラブの団体があり各クラブ毎に練習し、楽しんでおりましたが是非、協会を設立し、一同に会して大会等を通じて、親睦と健康と技術の向上を目的に、平成17年10月7日に結成、当時84名の会員で発足しました。

各クラブでは、市内の公園の広場を、許可申請し 使用しておりますが、近くの住民により、「ここは運 動公園ではありません」と、たびたびお怒りを受け る事もあり、大変恐縮しております。守谷市にも是 非、安心して練習の出来る場所の確保を望んでおり ます。

近隣市町には、専用グラウンドが有り、気遣いなく、楽しむ事が羨ましく思うにもかかわらず、技術的には他市町と比べ上達しており、各種大会に参加しても、守谷の選手と注目されるようになりました。これも、当協会の運営・指導によるものと、確信しております。

当協会も、20年度末現在では、10クラブで、約130 名の会員となり、協会主催の春・秋、年2回の定期大 会を初め、県内外、各地、及び市内で開催される、各 大会に積極的に、参加し、他市町の愛好者達との、親 睦に深め、益々、技術向上等に、励んでおります。

19年度には、全国クラスの、スポーツレクリエーション青森県大会、そして、茨城県で開かれた、ねんりんピック2007にも、茨城県代表として出場し、誇りに思っております。

次に,協会としての年間活動は,次の通り

- 4月 協会春季大会。つくば交流大会
- 5月 市民大会。その他の大会。
- 6月 元気わくわくスポーツ大会。
- 10月 常総広域白寿大会。百人委員会県南大会。
- 11月 環境ふれあい大会。協会秋季大会。

協会では随時入会希望者を受け入れ,尚一層,協 会発展を,願っております。

#### 連絡先

守谷市グラウンドゴルフ協会 会長 坂 尋 電話 0297-48-1014



平成19年 全国スポーツレクリエーション祭 茨城県代表 守谷市チーム (青森県)



平成17年 かんぽグランドゴルフ大会(立沢公園)



平成20年4月 市民グラウンドゴルフ大会 (常総運動公園)

### 柔道

柔道部は平成17年4月に守谷柔道クラブを発足し、 当初11名中学生主体で、守谷中学校格技場にて活動 を開始し、その後幼年3名、小学生5名、中学生7名、 高校生2名、大学生3名、一般6名、計26名となり、約 半年間の基礎練習を重ね、各大会に出場を始めまし た。

初試合は関東親善柔道大会で小学生の団体戦で、皆 緊張して試合になっていなかったのを覚えています。

11月には長野県松本市で行われる醍醐敏郎杯全国 少年柔道練成大会に中学生の男子,女子,各1チーム 団体戦に出場,男子1回戦負,女子3回戦負けであっ たが良い経験になったと思います。

その後,各高校に進学し柔道部に入部,文武両道 で頑張っています。

平成19年に入り、初の鏡開きを行いました。この 年から小、中の県南強化試合の参加、夏合宿、バー ベキュー、レクリエーションなど取り入れました。

試合では、日本武道館での全日本少年武道練成大会に初出場し、又、県南柔道大会では小学生個人として6年生女子の部で準優勝するなど少しずつ成果が

出はじめたと思います。

平成20年、3年目にして土浦市柔道大会小学生団体 戦において初めて2勝するなど、この大会で勝つ喜び、 負けた悔しさを、みんなでしっかり味わったと思い ます。

まだ3年目の若い部であり、いまだ手探り状態で試 行錯誤しながら精力善用、自他共栄の精神をもって、 心身ともに健全に成長していける様、これからも子 供達と共に指導者又父兄の皆様と一丸となって厳し く楽しく頑張っていきたいと思います。

### 連絡先

守谷市柔道部 代表 沖田興一 電話 0297-45-0171





平成 19 年度全日本少年武道錬成大会 平成 19 年 8 月 5 日

日本武道館



平成19年1月 初の鏡開き (守谷中格技場)



平成19年5月 窃盗事件早期解決に貢献 取手警察署長より感謝状が3名に授与 (けやき台中学校格技場)



平成20年2月 練習後 (けやき台中格技場)

### 剣道

剣道部は体育協会に加盟して間もない部門ですが、 現在、活動の拠点としている錬心塾道場のご紹介を させて頂き、剣道を通して体育協会の目的を達成し ていく、新たな決意表明をしていきたいと思います。

剣道部の活動拠点の錬心塾は、1975年11月24日に 創設されました。その目的は、地域青少年の健全な 育成にあります。地域の少年を集め、古谷勲先生の 指導の下、勝負にこだわることなく、人間的成長を 図る心の養成を主眼とし、基本に忠実な剣道を目指 して、稽古に励んできています。オランダには、錬 心塾道場の姉妹道場があり、様々な国際交流も行わ れています。

この間,多くの子供達が巣立っていきましたが, 剣道で活躍する子はもちろんのこと,剣道で自信を 得て勉強で頭角を現した子,文武両道で頑張った子 など,いずれも人間的に成長して巣立っていくこと が出来ました。

現在は、そうした錬心塾の方針に感銘を受けた子 供達の親が中心となって、大人から子供までが一緒 になって稽古に励んでいます。多くの親が剣道の初 心者でしたが、年齢に関係なく、常に人間的成長の 努力が必要と考え、古谷先生の指導を仰ぎながら、充 実した時間を得ることが出来るようになりました。 様々な職業や立場の仲間が集い、規律を持った楽し い稽古をしながら、多いにコミュニケーションを図 っています。

こうした活動は、健康増進・スポーツマンシップ の涵養・市民の精神的結合と生活の明朗化等、守谷 市体育協会の目的とまさに合致するものと自負して います。引き続き剣道を通した人間形成を忘れるこ となく、守谷市体育協会のメンバーとして努力して いきたいと考えています。

#### 連絡先

守谷市剣道部 代表 古谷 勲 電話 0297-48-0291



剣道部集合写真 練心塾にて

### スポーツ少年団本部

昭和61年,子供たちが好きな時に,好きなスポーツを自由に楽しめるようにと守谷町にスポーツ少年団が発足し,守谷町体育協会に少年団本部として加盟いたしました。

加盟当時の活動種目は、サッカー、ミニバスケットボール、空手の3種目、8単位団、会員数は390名で、各クラブとも定期練習を基に、近隣のクラブとの交流試合、そして県スポーツ少年団等主催の大会に幅広く参加して活躍しておりました。

スポーツ少年団は、スポーツ活動を中心に「スポーツによる青少年の健全育成」という目的で活動しておりますが、『スポーツ』それ自身が一つの文化でもあり、そこに教育的な価値と多くの副次的効果が生まれると考えられております。

現在、守谷市スポーツ少年団は、ミニバスケットボール、ハンドボール、バドミントン、軟式野球、サッカー、剣道、硬式野球、柔道、少林寺拳法、ソフトテニスと10種目、27単位団、会員数は889名で、毎年少しずつ会員が増えてきております。各クラブは県内の活躍はもちろんの事、バスケットボール、

ハンドボール,バドミントン,硬式野球などの種目は、関東大会,全国大会へ出場するなど全国レベルの力をつけてきております。特にハンドボールは平成10年と平成14年には全国大会優勝の偉業も成し遂げております。

また、青少年の健全育成を第一に考え、専門スポーツ活動のみならず、地域の奉仕活動や、専門外のスポーツ活動、自然体験や社会体験など、様々な活動を行っております。

このスポーツ少年団活動が地域社会に根をおろした活動となり、他の団体等との連携を密にし、これからますます多くの子供たちが入団されることを望んでおります。

#### 歷代本部長



平成20年 守谷市スポーツ少年団交流大会 50mチャンス走 (常総運動公園)



平成18年 守谷市スポーツ少年団交流大会 50mチャンス走(常総運動公園)

## ミニバスケットボール専門部会

私たちミニバスケットボールスポーツ少年団は、 市内に男子が6チーム、女子が7チームあり、日々練 習に励んでおります。その成果があって守谷市内の ミニバスケットボールチームの成績は、県内地区大 会及び県大会等において優秀な成績を収めておりま す。また、他市町村との交流も盛んで各種大会にも 多くのチームが出場し、子供たちが活躍している場 を保護者の方も多く見ることができ、つい応援に力 が入ってしまいます。

また、各ミニバスケットボールチームでは、練習 や試合だけでなく、親子でのレクリエーション(バ ーベキュー、親睦会)等、指導者・保護者・子供た ちとのコミュニケーションを図るため、楽しい企画 を数多く取り入れています。小学生であれば誰でも 参加できます。体を思いっきり動かすことの楽しさ、 汗を流すことの爽快感を味わってみませんか。生き 生きとし楽しい笑顔で声が響く、各小学校体育館へ 是非見学に来てみてください。

各チーム等の連絡先については, 守谷市スポーツ 少年団本部までお問い合わせ下さい。

#### 連絡先

守谷市スポーツ少年団本部 (教育委員会生涯学習課内) 電話 0297-45-1111 (代表)



平成14年 守谷市秋季ミニバスケットボール大会



平成14年 守谷市秋季ミニバスケットボール大会



平成20年 守谷市夏季ミニバスケットボール大会



平成20年 守谷市夏季ミニバスケットボール大会

## サッカー専門部会

## 守谷市体育協会 4 0 周年に寄せて

守谷市スポーツ少年団サッカー部会は、守谷市に根を下ろして早25年の歳月を数えました。単位団ーつからスタートし8単位団を数えたこともありましたが、現在、4単位団総勢300名にて活動しています。主役はもちろん小学1年生から6年生までのスポーツを愛する子供達です。指導環境も充実しており50名近い指導者がそれぞれの団において日夜情熱を持って指導にあたっています。

部会の活動は春の4年生以下大会、スポ少県大会の予選会、柏レイソルの協力によるサッカースクール、秋の4年生以下大会、県外チームも参加する守谷市長杯争奪守谷カップ、5年生を対象にした大久保チャレンジカップ、3月には6年生にとっての最後の送別カップと1年を通して活動しています。

活動場所は小学校の校庭,利根川河川敷の大利根グラウンドを使用しています,大利根グラウンドでは春から秋に掛けて父母会の方々にご協力をいただいて行う芝刈りも大事な活動の一つです。自分達のグラウンドは自分達の手で整備の心がけを持って行

っています。19年には当少年団を巣立った J リーガーも誕生しました。近い将来、守谷市出身のアスリートが胸に日の丸を付け、インターナショナルの場で活躍される期待が高まります。グラウンドで心地良い汗を掻いています、将来を担う子供達とともに!! 連絡先

守谷市スポーツ少年団サッカー部会 会長 飯田健三 電話 0297-45-1509





平成11年9月 レイソルサッカースクール (大利根運動公園グラウンド)



姉妹都市ドイツ マインブルクサッカーチームとの交流 平成12年 日本興亜研修センター



平成19年9月 サッカースクール (大井沢小学校)



平成19年10月 レイソルサッカー教室 (常総運動公園陸上競技場)

### 軟式野球専門部会

軟式少年野球部会は、新守谷ヤングスターズ、みずき野シティボーイズ、守谷ドルフィンズの3チームが所属しています。

新守谷ヤングスターズは、昭和57年3月、常総線新守谷駅が完成し、北守谷地区に入居が始まり、4月御所ケ丘小学校開校に伴い学校仲間達が草野球をして集い、初代惣藤代表、堺監督を中心に10月17日『新守谷ヤングスターズ』が結成されました。

結成当初は、5年生9人でスタートしました。ユニホーム無し、私服で布川エンジェルス杯大会に参加したのが、ヤングスターズの第一戦でした。

みずき野シティボーイズは、南守谷みずき野団地 に「パークシティー守谷」の少年「ボーイズ」とい うことから命名されました。

昭和57年,子ども会ソフトボール大会に参加する ため,集合した子供達の中から、軟式野球の好きな 子供達を集め、昭和58年7月10日,金沢初代監督を中 心に結成されました。

58年4月開校した郷州小学校のグラウンドは、サッカーチームと調整して使用していましたが、みずき

野に野球場が完成し専用で使用出来るという恵まれ た環境で実力をつけていきました。

この2チームは、15チームが加盟する「常総少年野球連盟」に加盟し毎年リーグ戦を行い交流しています。その他、学童大会、スポ少大会、近隣の多くの大会に招待され活躍し、輝かしい成績を残して参りました。

同じ時期に守谷市の南北に分かれてチームを結成 し、互いに競い合い、助け合いながら、数々の大会 に参加しながら、守谷町長杯を共同で主管して参り ました。平成14年からは守谷市制移行に伴い『守谷 市長杯争奪少年野球大会』に名称変更しました。

守谷ドルフィンズは、平成18年に結成され、翌年の大会から3チームでの運営になり、それまでの16チームでの大会から、20チームの参加による争奪戦に 規模も大きく成りました。

この影には、ドルフィンズの加盟なくては出来得ない事でした。部会では更なる多くのチームに参加して貰える様協議しています。

スポーツ少年団軟式野球部会の目標は,スポーツ を通して,小学生の子供達と父母,その家族と一緒 になり,野球を楽しみながら近隣の野球仲間と交流 をして行き,教育的役割,子供達の健全育成に努め,



平成13年 新守谷ヤングスターズ (6年生を送る会)

多くの子供達の無限の可能性を開発していく事です。 野球は勝負事ですが、「勝」意味とは、健康で強い 身体作りとマナーを練習で身につけ、継続出来る事。 試合でルールを守り、仲間を信じ全力でプレーする 事。強豪チーム相手に強い気持ちを持って戦う事。 そして何よりも必要なのは、大人達から子供達への 褒め言葉と考えます。

部会3チームでこれからも協力して行き、楽しく、明るく、元気な『宝』を育てていきたいと思います。 ご支援お願いします。

最後になりましたが、体育協会を始めスポーツ少年団事務局関係の皆様、地域住民の皆様の応援、ご協力にこの紙面をお借りしましてお礼と感謝を申し上げます。



平成6年 みずき野シティボーイズ 取手市青少年健全育成少年野球大会 優勝 常総少年野球大会 優勝



平成20年 守谷ドルフィンズ 練習グラウンドにて (北守谷調整池グラウンド)

## ハンドボール専門部会

スポーツ少年団守谷クラブは、昭和60年(1985年)にミニバスケットボールを中心としたスポーツ少年団として設立され、中村和敏先生の指導のもと、高野小学校周辺の児童を中心に活動を開始しました。当初は、守谷町(現:守谷市)内のチームや大会での試合が主でしたが、昭和62年(1987年)よりハンドボール競技も取り入れ、ミニバスケットボールとの併用で活動するようになりました。やがてミニバスケットボールは、人数の都合から大井沢小学校と合同で活動するようになり、守谷クラブは、ハンドボール中心のクラブへとなっていきました。

平成4年 (1992年),中山 悟先生 (現:大井沢小学校教頭)が監督に就任され、やがて県大会、関東大会、全国大会、守谷杯、読売杯へと活躍の場を広げ、平成10年、平成14年には、全国大会優勝という輝かしい成績を収めるまでになり、「守谷クラブ」と言えば、ハンドボールと言われるまでに成長し、クラブの名は、全国へ知れ渡るようになりました。平成20年の今年、新たに女子チームも立ち上げ、今夏の全国大会へ男女アベック出場という快挙を成し遂

げました。

本年設立24周年を迎え、長い歴史の中、中学・高校・大学・社会人・全日本選抜へと卒業生を輩出している守谷クラブですが、コーチ陣にも恵まれ、また、団役員・父母会とが互いに連携を取り、児童のために強力なバックアップも行っています。県内はもちろん、他のチームとの友好を深めつつ、ハンドボール競技の発展のために日々活動しています。

なお、守谷クラブの練習は、毎週水、金、土、日曜日に高野小学校グラウンド(体育館)にて行っています。是非、見学にいらしてください。

## ●沿革

西暦	主な活動内容等
1985年	守谷クラブ設立
1987年	ハンドボール競技活動に取り入れる
1988年	第1回ハンドボール全国大会にて第4位(女子)
1989年	第2回ハンドボール全国大会にて第5位(女子)
1992年	中山 悟先生 監督就任
1997年	第10回ハンドボール全国大会にて第3位(男子)
1998年	第11回ハンドボール全国大会にて初優勝(男子)
2002年	第15回ハンドボール全国大会にて優勝(男子)
2008年	女子チーム再発足。第21回ハンドボール全国大会 男女ともに出場 他に、関東大会15回優勝、守谷杯11回優勝、読売杯13回優勝 など、多数の大会を制しています。



平成4年 第5回全国小学ハンドボール大会